

トラベルボイス調査レポート

ワーケーションの海外動向調査2021

～働き方×旅行という新たな市場、分類考察から海外事例まで～

2021年1月

トラベルボイス株式会社

新たな働き方から生まれつつある市場

- コロナ禍において広まったリモートワークを機に、観光においても新たな市場が生まれつつある

← 業務内容は日常業務か現地ではできない業務（非日常）か →

日常
業務

非日常
業務

		ワーク・フромホーム (Work From Home *1)	ワーケーション (Workation)	Work During Vacation (*2)	ブレジャー (Bleisure= Business+leisure)	
概要		会社へ 出社しない形で の勤務 （自宅等）	観光地等に滞在 をしながらの勤務	個人 休暇の間での仕事	出張 を個人での レジャーのために延長	
移動の主目的		N/A	業務や家族サービスの ために環境を変える	観光	出張	
行先（勤務場所）選定の理由		3密対策、育児、 通勤時間短縮等	ストレス解消、 効率性の向上等	個人の好み	出張	
行先（勤務先）選択の個人の裁量		高	高	高	低	
プライオリティ	業務	○	○	△	○	
	観光	N/A	△	○	△	
業務内容	通常業務	○	○	○	△	
	現地ではできない業務	N/A	N/A	N/A	○	
コスト	交通費	居住地⇄目的地	N/A	個人負担*	個人負担	企業/個人負担 (個人でのレジャー分 は個人負担)
		現地移動	個人負担		自己負担	
	現地費用	食事				
		宿泊費用				
	業務に関する 費用	パソコン等の機器	企業負担	企業負担	企業負担	企業負担
		インターネット通信	個人/企業負担	個人/企業負担	個人/企業負担	
		プリント等				
		その他（打合せ、雑費）				

*1 英語の「Work From Home」は一般的に、日本語の「在宅勤務」のことを指す。

*2 英語の「Work During Vacation」は、日本語にすれば「休暇中におこなう一部勤務」ということになるが、日本では労務管理上、あまり一般的ではない。

*ワーケーションに係る交通費等に対して、企業側から一部補填等をするケースもある。 出所：トラベルボイスまとめ

【参考】

未来のハイブリッド型勤務場所（ボストン・コンサルティンググループ）

- 在宅勤務やリモートワークと言っても、完全なリモートワークだけでなく、出社とリモートのハイブリッド型が存在する

リモート
ワーク比率

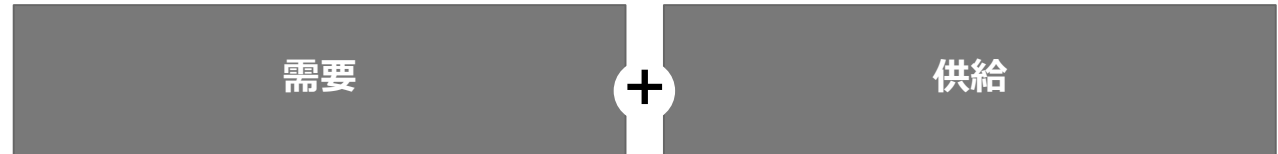
低

高

完全出社 Fully Collocated	出社とリモートの併用 Alternating On-site	必要に応じた出社 On-site On demand	ほぼリモート Connected remote	場所を選ばない勤務 Work from anywhere
0%	25-50%	50-75%	90-95%	100%
<ul style="list-style-type: none">業務のすべてをオフィスで実施	<ul style="list-style-type: none">部内または部をまたがる共同作業のために数日または数週間オフィスへ出社	<ul style="list-style-type: none">共同作業のために定められた日だけオフィスへ出社	<ul style="list-style-type: none">連携やその他目的のために月に1度、3時間以内の打合せ等に出席するためにオフィスへ出社	<ul style="list-style-type: none">オフィスへの出社は全くない
ハイブリッド型				

本レポートのフレームワーク

- 需要・供給×新たな働き方から生まれつつあるビジネス観光市場の観点から諸外国の事例を概観していく



ワーク・フロムホーム

+

ワーケーション

+

ブレジャー

- コロナ前にはどの程度が在宅ワークであったか？
コロナ禍は？ 今後は？

- コロナ前にはどの程度の需要があったか？

- **N/A**
調査がなされていない

- **N/A**
観光関連とはあまり関係ないので対象としない

- コロナによって、デスティネーション（供給側）はどのような対応をしているか？

- どのようなデスティネーションが人気なのか？

コロナ前、コロナ禍の在宅ワークの状況と今後の意向

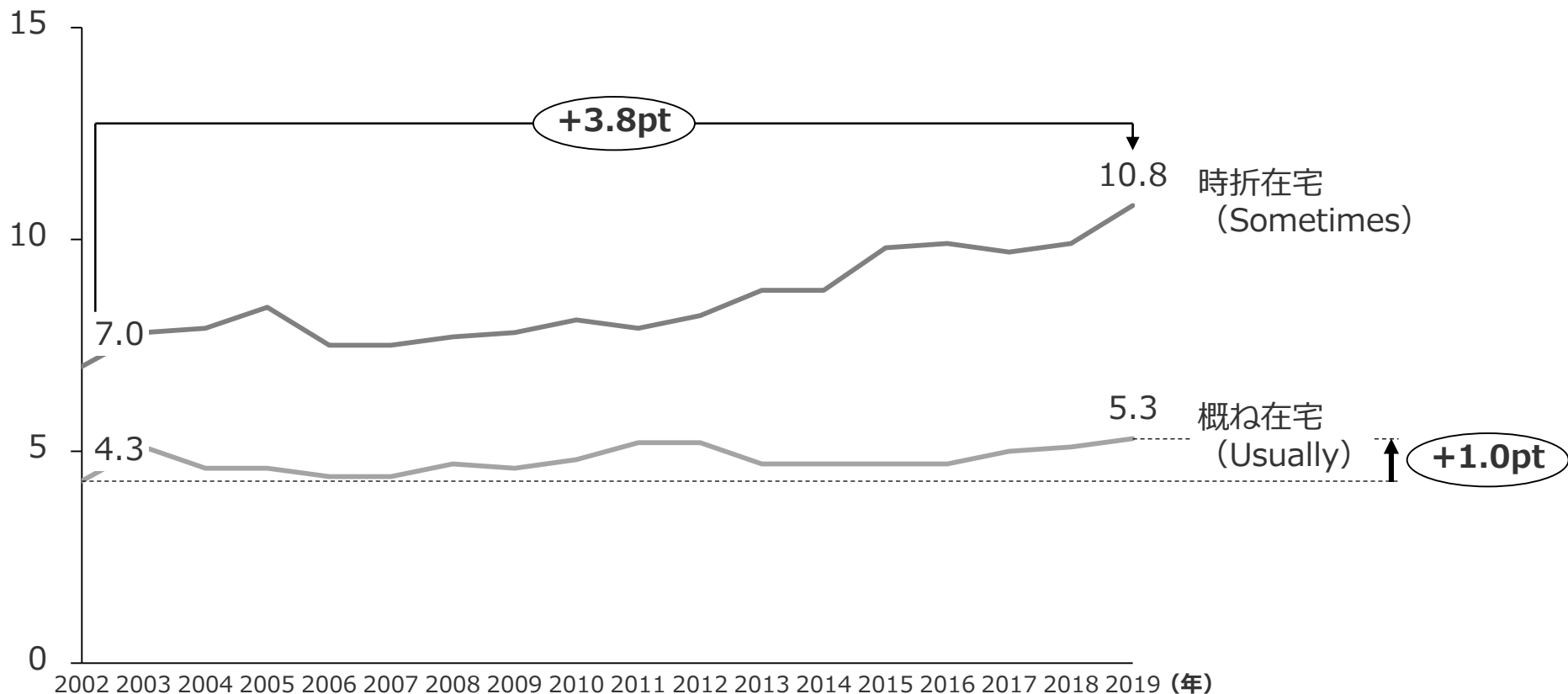
<欧州>

	需要	+	供給
ワーク・フロムホーム	<ul style="list-style-type: none"> コロナ前にはどの程度が在宅ワークであったか？ コロナ禍は？ 今後は？ 		<p>N/A</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光関連とはあまり関係ないので対象としない
+			
ワーケーション	<ul style="list-style-type: none"> コロナ前にはどの程度の需要があったか？ 		<ul style="list-style-type: none"> コロナによって、デスティネーション（供給側）はどのような対応をしているか？
+			
プレジャー	<p>N/A</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査がなされていない 		<ul style="list-style-type: none"> どのようなデスティネーションが人気なのか？

コロナパンデミック前までの在宅勤務適用者（在宅勤務者の比率の推移）

- コロナ前の在宅勤務者の割合（概ね在宅勤務）は、徐々に増加していたとはいえ5.3%程度であったが・・・

被用者の在宅勤務比率の推移（EU28か国（英国含む））：単位%

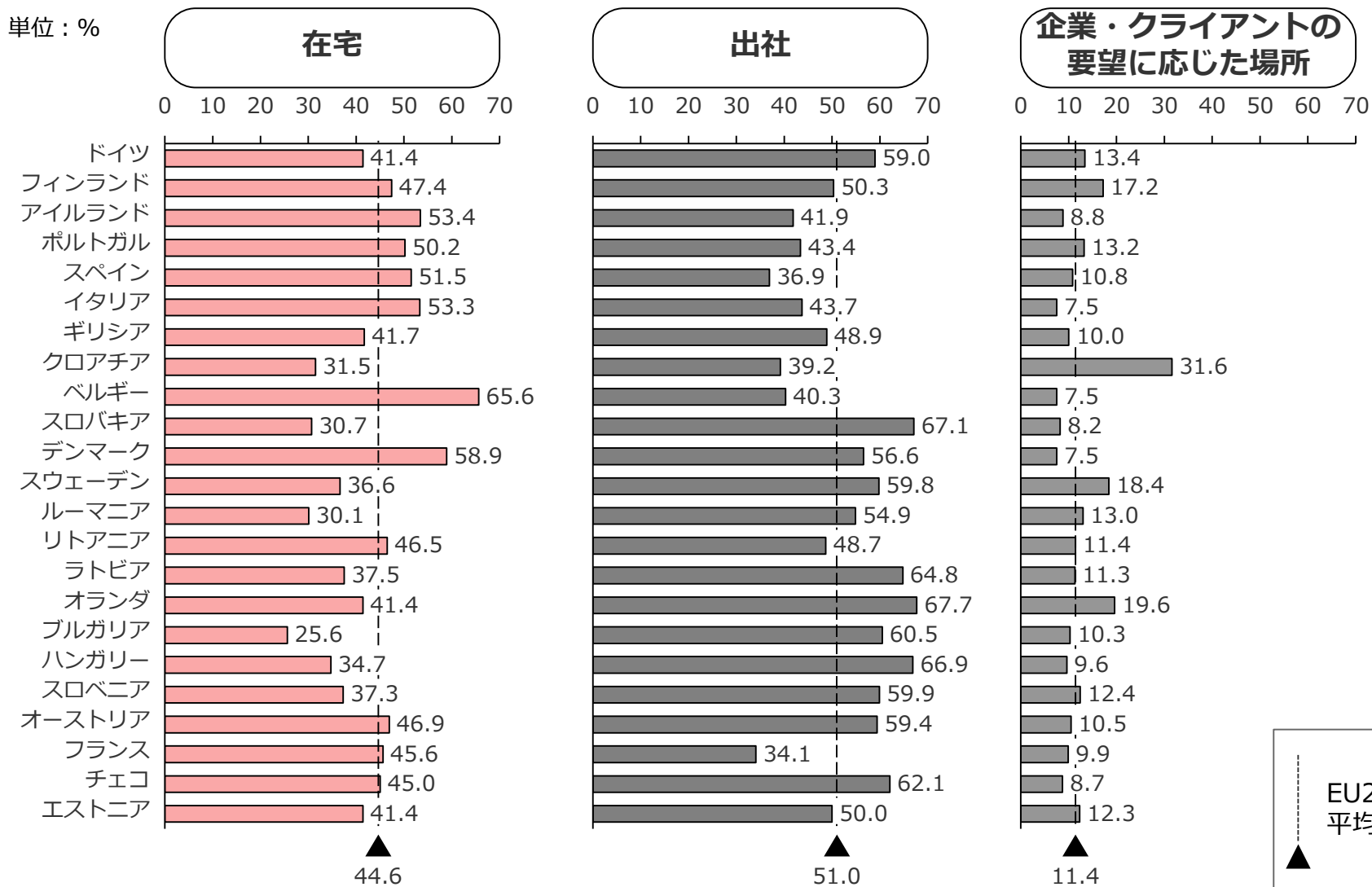


*Employed persons working from home as a percentage of the total employment

出所：Eurostat (<https://ec.europa.eu/eurostat>) よりトラベルボイス作成

■ コロナパンデミック下では、44.6%が在宅勤務を経験

単位：%



*During the Covid-19 pandemic, where did you work? (コロナパンデミック下ではどこで勤務をしたか?)

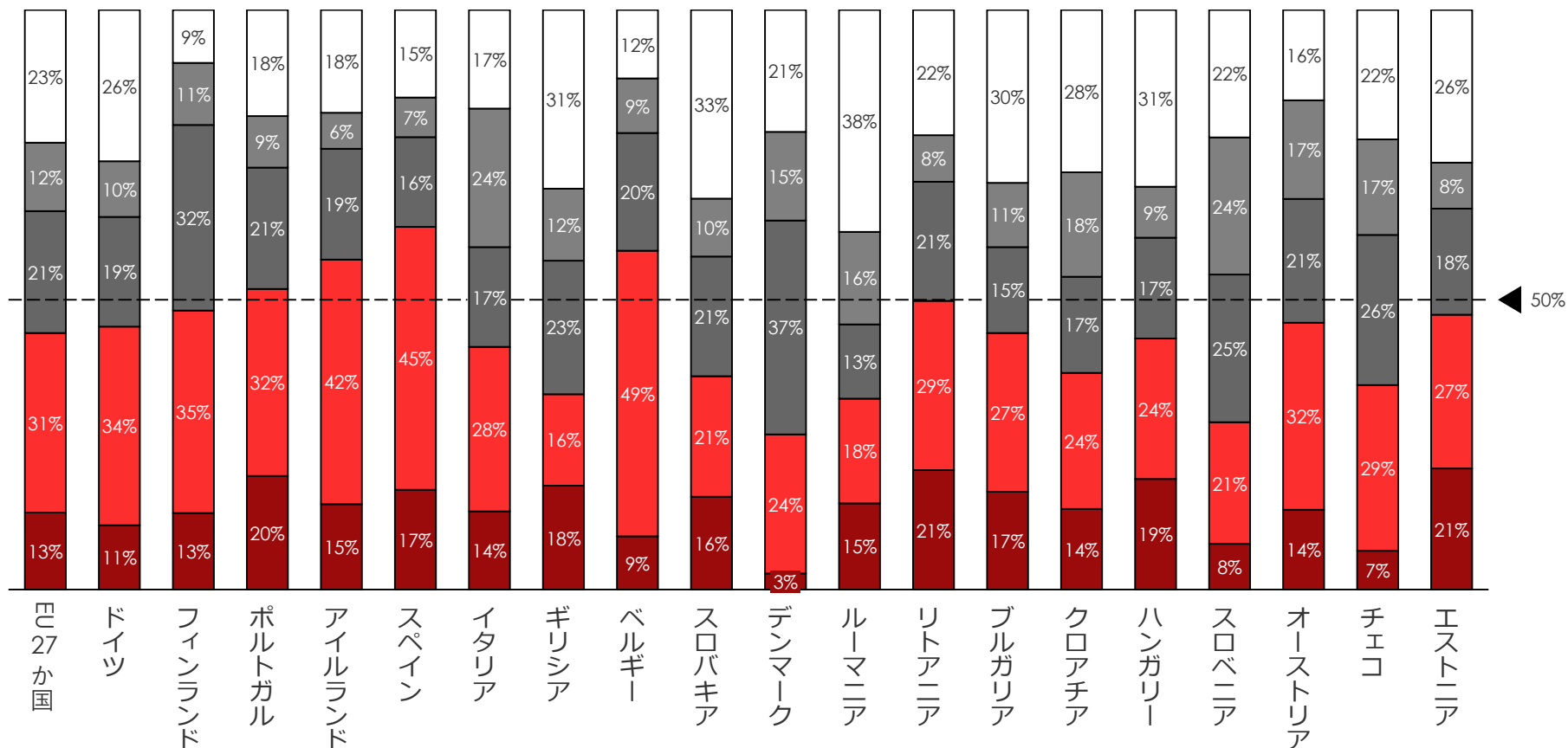
出所：Eurofound「Covid-19 Living, working and COVID-19」 (<https://www.eurofound.europa.eu/data/covid-19>) (2020年6月~7月調査実施)

よりトラベルボイス作成

アフターコロナにおける在宅勤務に対する意向

- アフターコロナにおいても、概ね40%程度が「毎日」または「週に数回」程度、在宅勤務での勤務形態を望んでいる

■ 毎日 ■ 週に数回 ■ 月に数回 ■ ほとんどしない □ 絶対しない



*設問：If you had the choice, how often would you like to work from home if there were no restrictions due to COVID-19?

出所：Eurofound「Covid-19 Living, working and COVID-19」 (<https://www.eurofound.europa.eu/data/covid-19>) (2020年6月~7月調査実施)

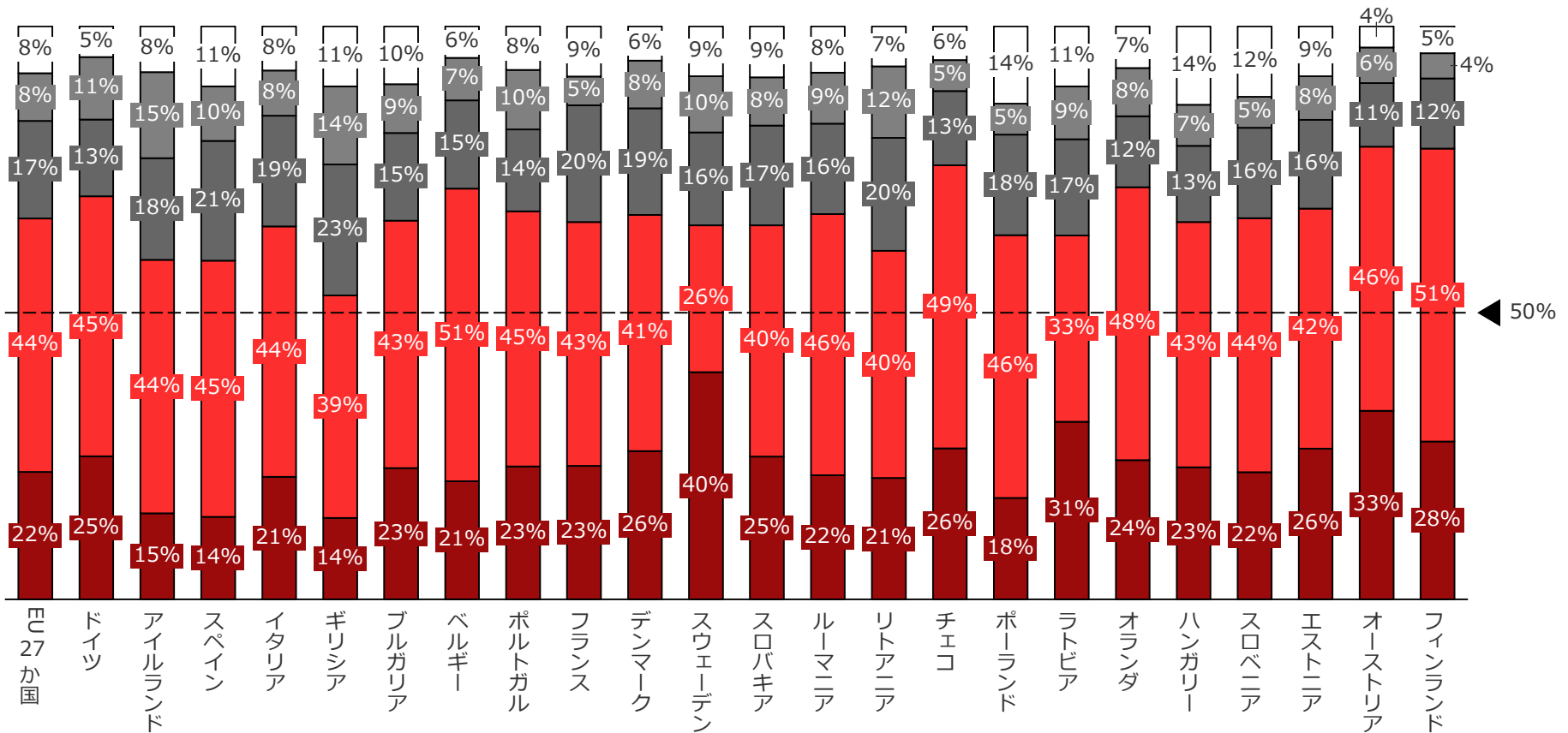
よりトラベルボイス作成

コロナパンデミック下での在宅勤務の際の自宅にある設備での業務遂行

- 概ね60~80%程度が、在宅で勤務の設備でも業務遂行ができたと回答

在宅勤務の際に、自宅にある設備（機材等）で支障なく業務ができましたか？

■ 問題なくできた
 ■ できた
 ■ どちらともいえない
 ■ できなかった
 全くできなかった



*設問：To what extent do you agree or disagree with the following statements about working from home during the COVID-19 pandemic? ('With the equipment I have at home I could do my work properly' by country) 出所：Eurofound「Covid-19 Living, working and COVID-19」 (<https://www.eurofound.europa.eu/data/covid-19>) (2020年6月~7月調査実施) よりトラベルボイス作成

コロナ前、コロナ禍の在宅ワークの状況と今後の意向

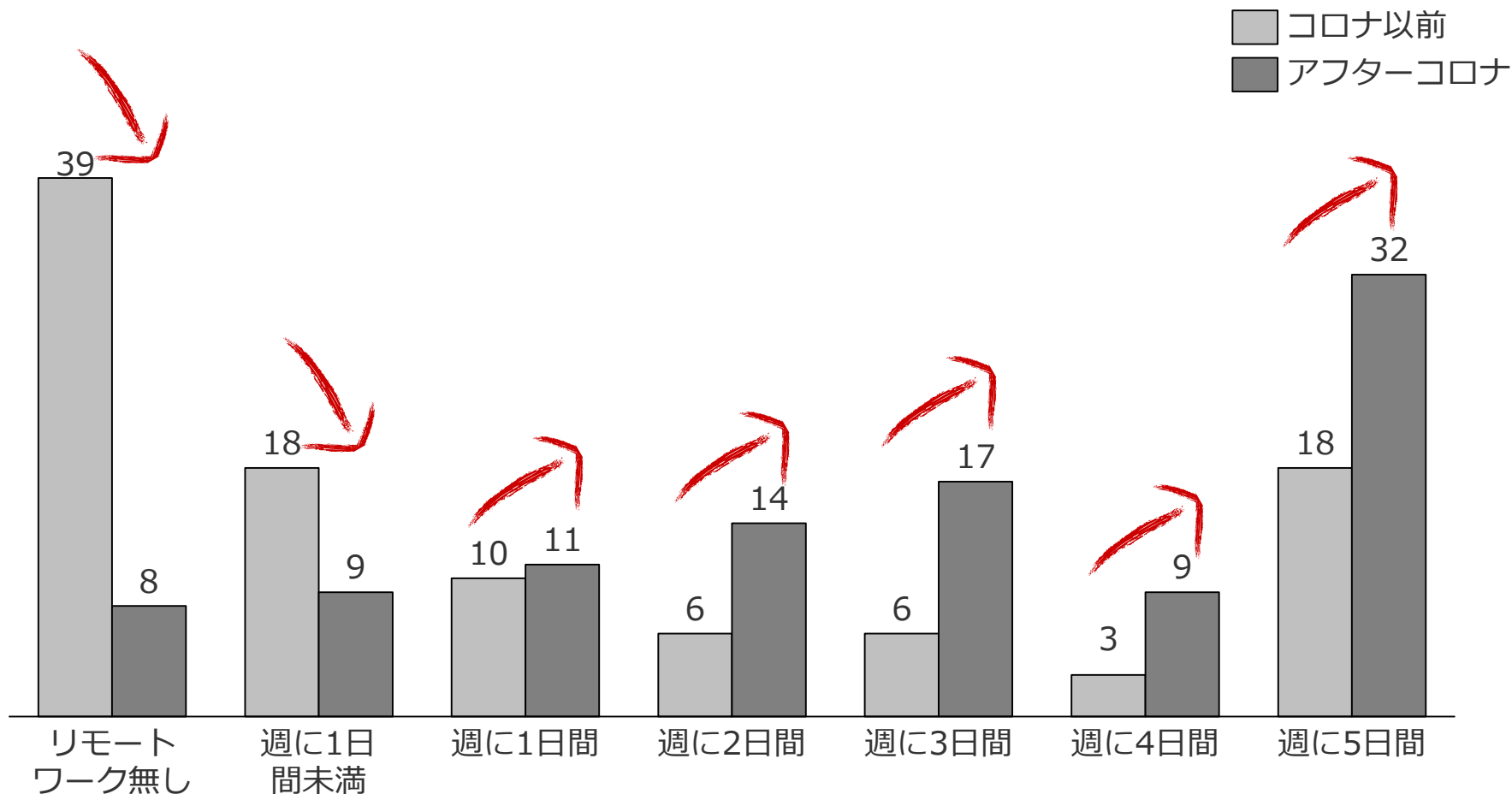
<米国>

	需要	+	供給
ワーク・フロムホーム	<ul style="list-style-type: none"> コロナ前にはどの程度が在宅ワークであったか？ コロナ禍は？ 今後は？ 		<p>N/A</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光関連とはあまり関係ないので対象としない
+			
ワーケーション	<ul style="list-style-type: none"> コロナ前にはどの程度の需要があったか？ 		<ul style="list-style-type: none"> コロナによって、デスティネーション（供給側）はどのような対応をしているか？
+			
プレジャー	<p>N/A</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査がなされていない 		<ul style="list-style-type: none"> どのようなデスティネーションが人気なのか？

- アフターコロナでは、リモートワーク実施意向が増加

コロナ以前・アフターコロナのリモートワークの実施頻度（単位：％）

コロナ以前はどのくらいリモートワークをしていましたか？、アフターコロナではどのくらいリモートワークをしますか？



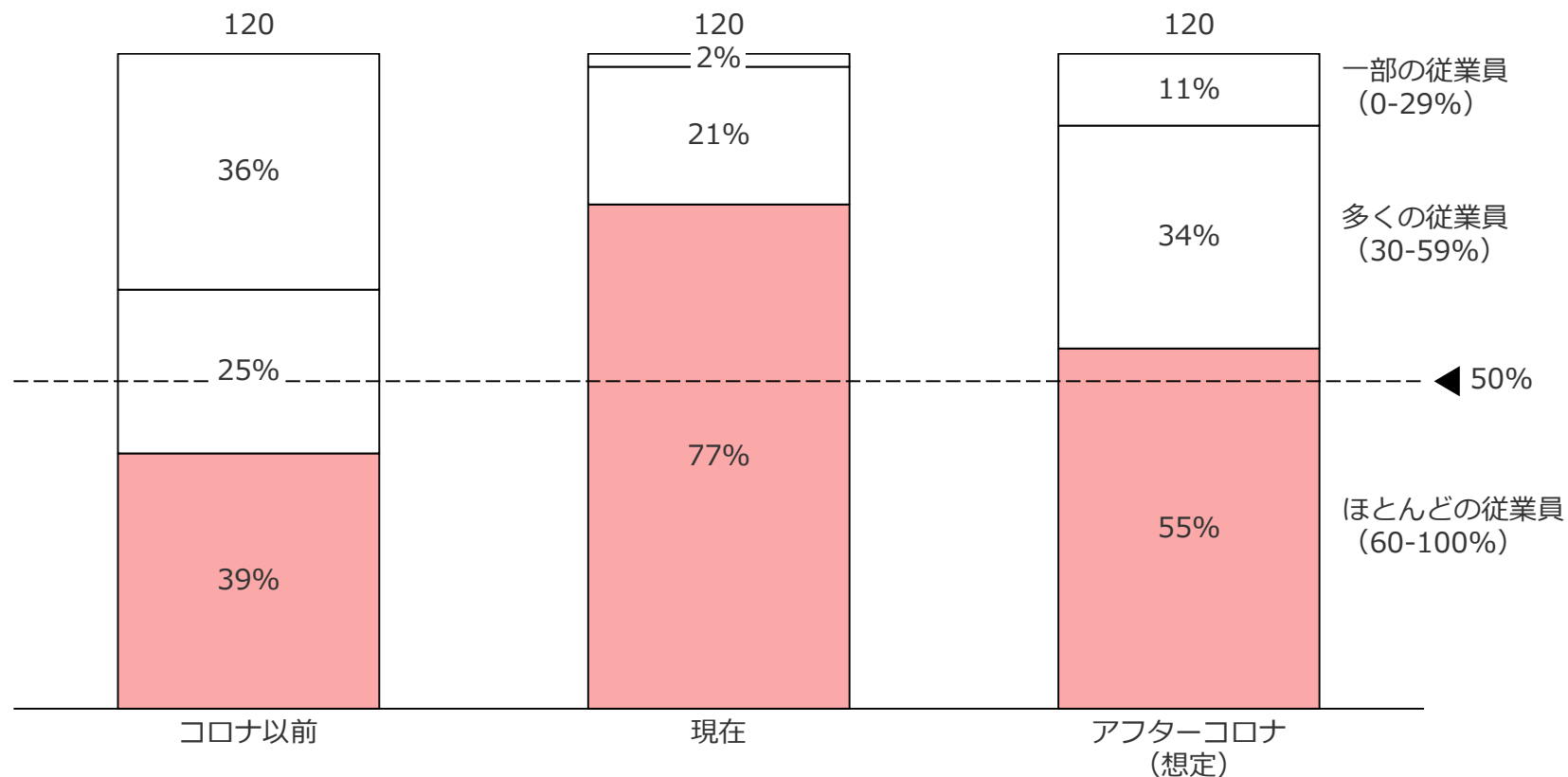
出所：PWC US Remote Work Survey (<https://www.pwc.com/us/en/library/covid-19/us-remote-work-survey.html>)

2020年6月25日実施（従業員：サンプル1,200）よりトラベルボイス作成

米国 経営層から見た従業員の働き方の変化

- 経営層から見ると今後も多くの従業員がリモートワークをすると想定している

どの程度の従業員が少なくとも1週間に1度のリモートワークをした/すると想定しますか？

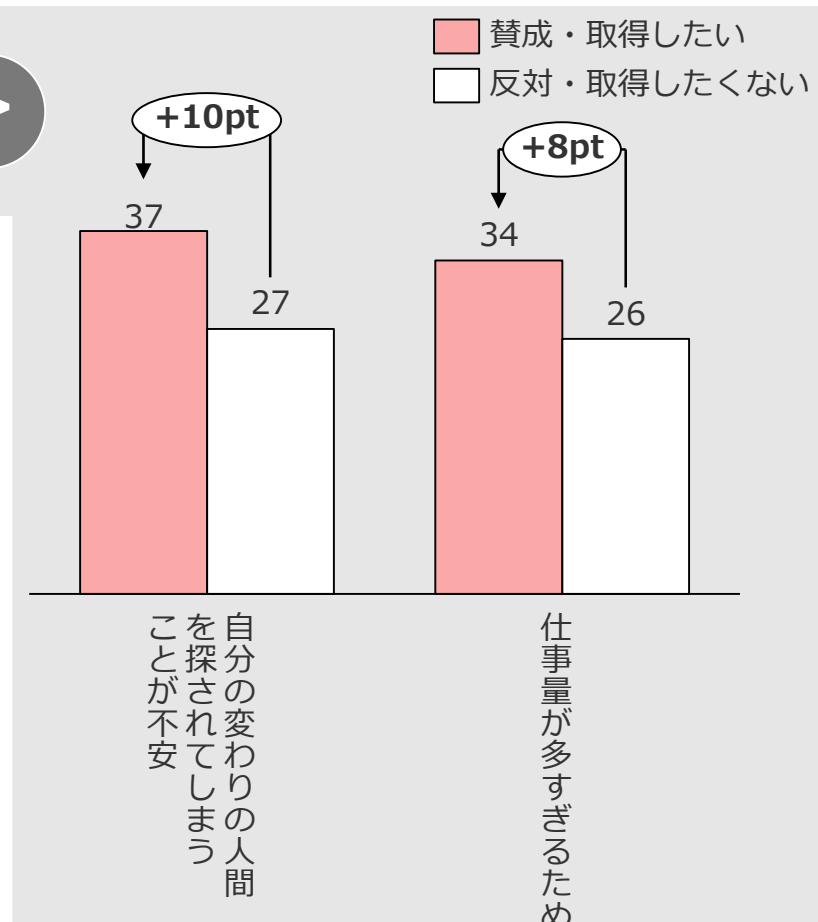
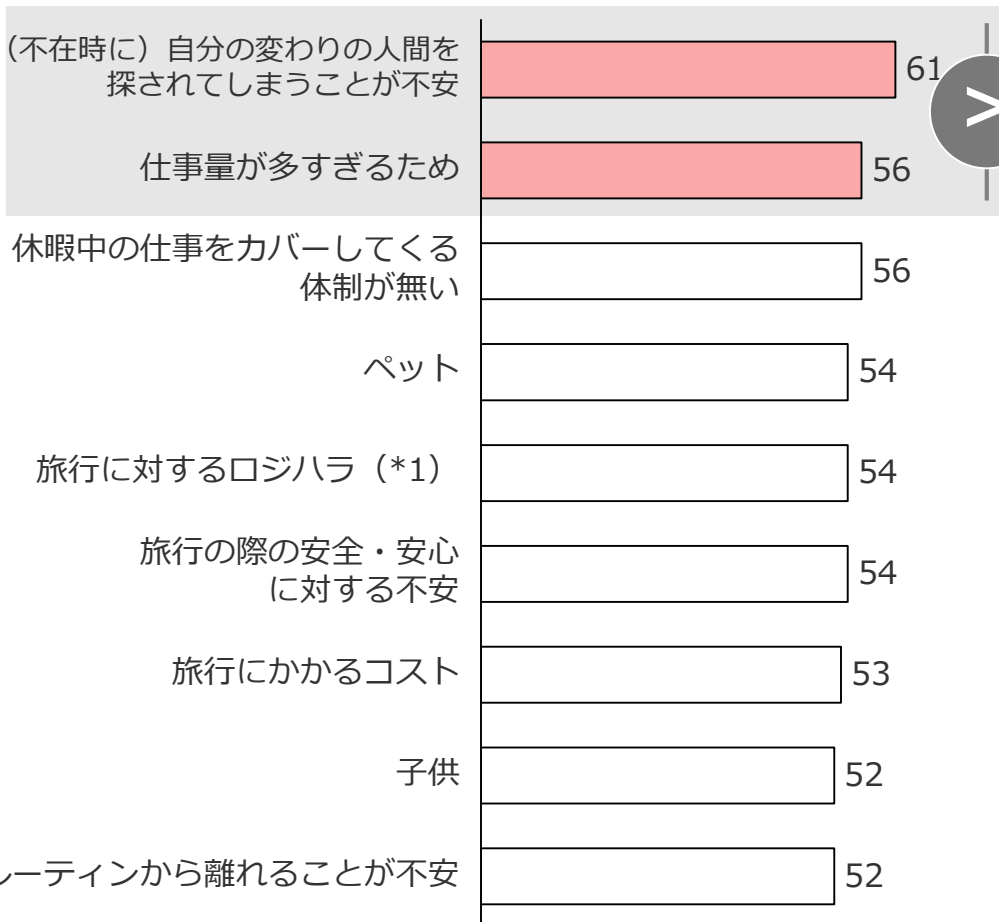


休暇取得促進策としてのワーケーションへの期待

- 米国では休暇を取得して旅行に行くことができない理由として職場関連の要因が大きい。職場関連の懸念事項に対して、ワーケーションを行うことへ賛成が反対を上回る

有給休暇を取得した旅行ができない理由（阻害要因）
（単位：％）

ワーケーションに対する意向
（単位：％）



*1 ロジハラとは、ロジックハラスメントの略称。相手の気持ちを考慮せずに、正論で相手を追い詰める行為。

* 2018年1月実施（4,349人のアメリカへの調査：週35時間以上の労働と有給休暇を得ているもの）

出所：U.S. Travel Association「State of American Vacation 2018」 (<https://www.ustravel.org/research/state-american-vacation-2018>)

よりトラベルボイス作成

コロナ前、コロナ禍の在宅ワークの状況と今後の意向

<その他／グローバルレベル>

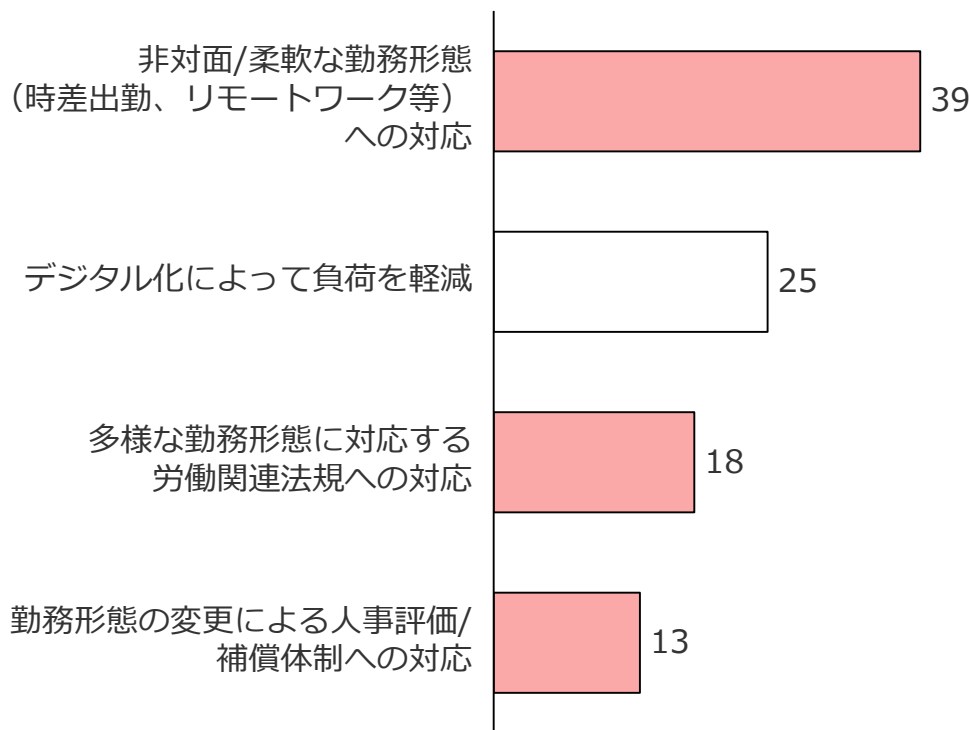
	需要	+	供給
ワーク・フロムホーム	<ul style="list-style-type: none"> コロナ前にはどの程度が在宅ワークであったか？ コロナ禍は？ 今後は？ 		<p>N/A</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光関連とはあまり関係ないので対象としない
+			
ワーケーション	<ul style="list-style-type: none"> コロナ前にはどの程度の需要があったか？ 		<ul style="list-style-type: none"> コロナによって、デスティネーション（供給側）はどのような対応をしているか？
+			
プレジャー	<p>N/A</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査がなされていない 		<ul style="list-style-type: none"> どのようなデスティネーションが人気なのか？

企業による柔軟な勤務形態の導入状況

- 韓国ではコロナ対策として約40%の企業が非対面や時差出勤、リモートワーク等の柔軟な勤務形態に対応。約75%が柔軟な勤務形態を導入した

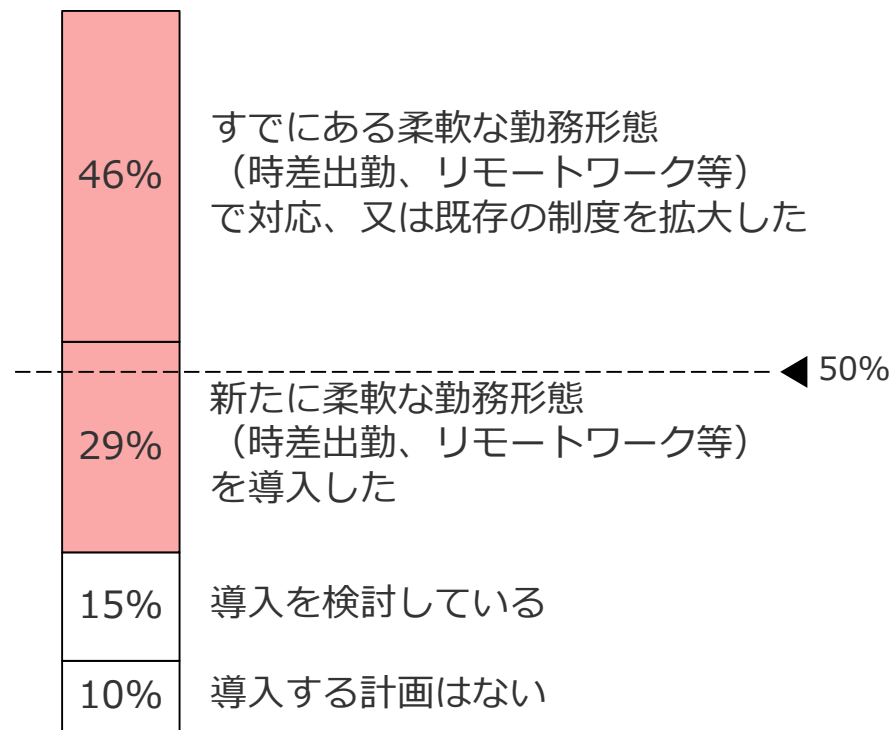
企業が講じた労働環境面におけるコロナ対策 (単位：%)

- 約40%の企業がリモートワーク等の柔軟な勤務形態への対応を実施。また、勤務形態の変更に対応するための法規や評価・補償等に対する対応も13~18%実施された



コロナ禍における柔軟な勤務形態の導入状況 (単位：%)

- 約75%が柔軟な勤務形態を導入した



*n=120社

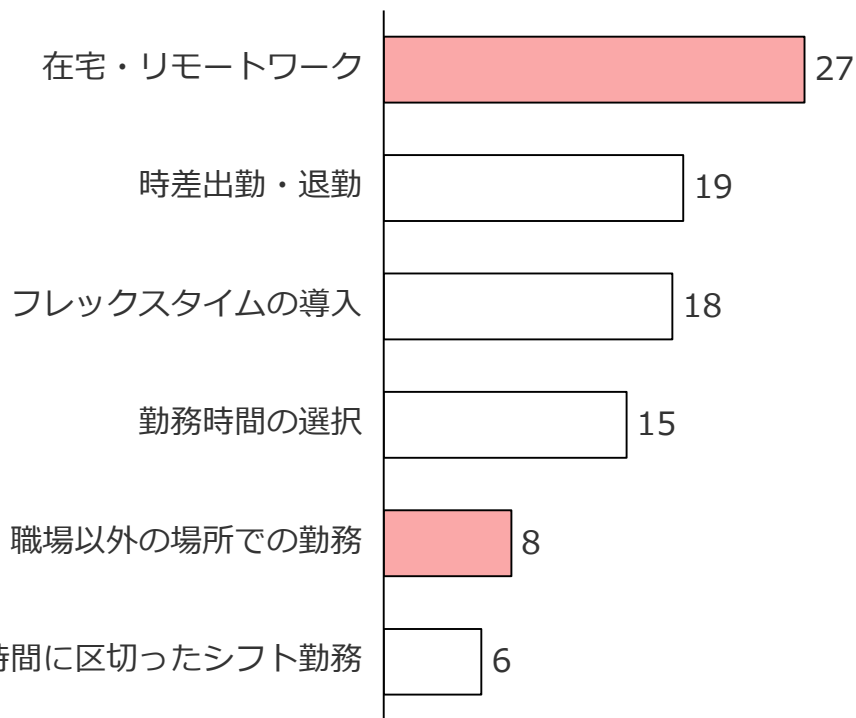
出所：韓国経済研究院 (<http://www.keri.org/web/www/home>) 「コロナ以降の勤労形態の変化及び労働環境の展望」よりトラベルボイス作成

企業による柔軟な勤務形態の導入状況

- 柔軟な勤務形態としては、在宅・リモートワークが27%。柔軟な勤務形態に対しては約57%が生産性が向上したと回答している

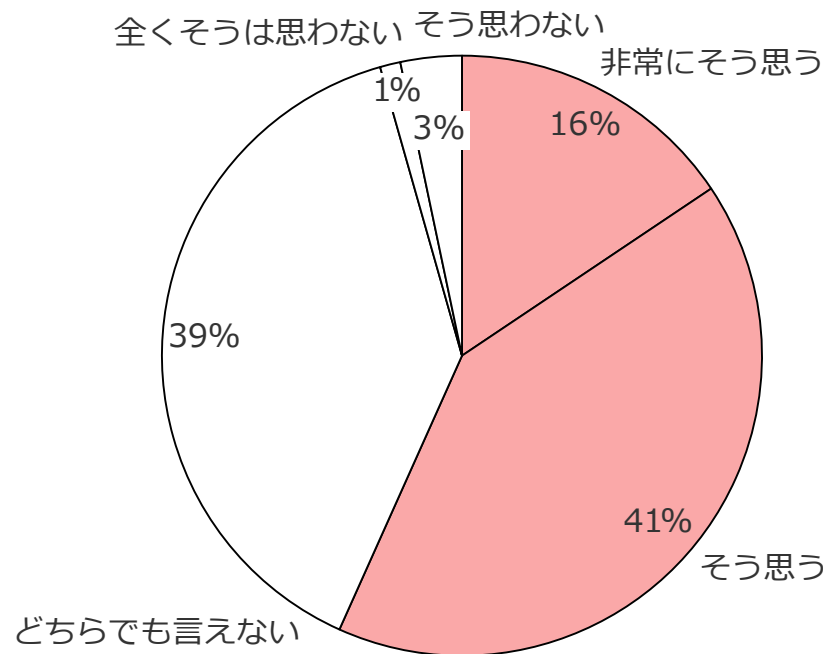
柔軟な勤務形態の導入形態 (単位：%)

- 柔軟な勤務形態を導入している企業では、27%が在宅・リモートワークを8%が職場以外での勤務を導入している



柔軟な勤務形態の生産性向上について (単位：%)

- 約57%が柔軟な勤務形態導入によって生産性の向上を実感



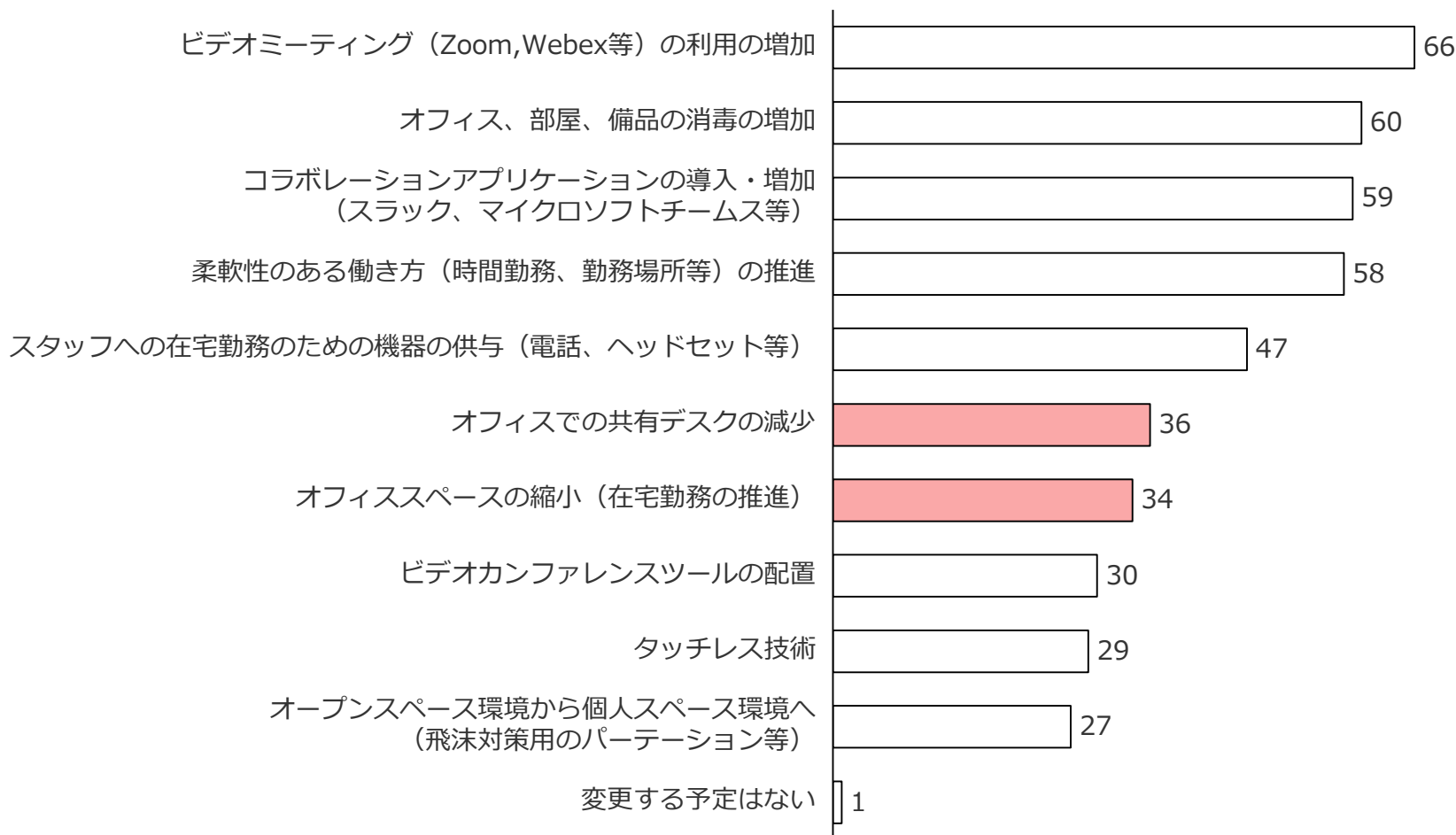
*n=120社

出所：韓国経済研究院 (<http://www.keri.org/web/www/home>) 「コロナ以降の勤労形態の変化及び労働環境の展望」よりトラベルボイス作成

企業のマネージャーや経営層から見た今後の勤務環境に関する対応策

- マネージャーや経営層からは、今後の勤務環境対応策として在宅勤務関連の設備の供与・拡充だけでなく、オフィススペースの縮小といった既存オフィス環境の変更が挙げられている

スタッフ向けにCOVID-19対策として講じる予定の勤務環境に関する対応策（単位：％）



*n=1,569、本調査の対象は、マネージャー、およびエグゼクティブレベルを対象。サンプルは世界各国から集められている (EMEM36%、北米31%、APAC23%、中国10%)

出所：Dimensional Research(Sponsored by Cisco Webex)「The Rise of the hybrid workplace-A global survey of Executives, Employee Experience Experts, and Knowledge works」
(<https://www.cisco.com/c/dam/en/us/products/collateral/collaboration-endpoints/global-workforce-survey.pdf>) 2020年10月実施よりトラベルボイス作成

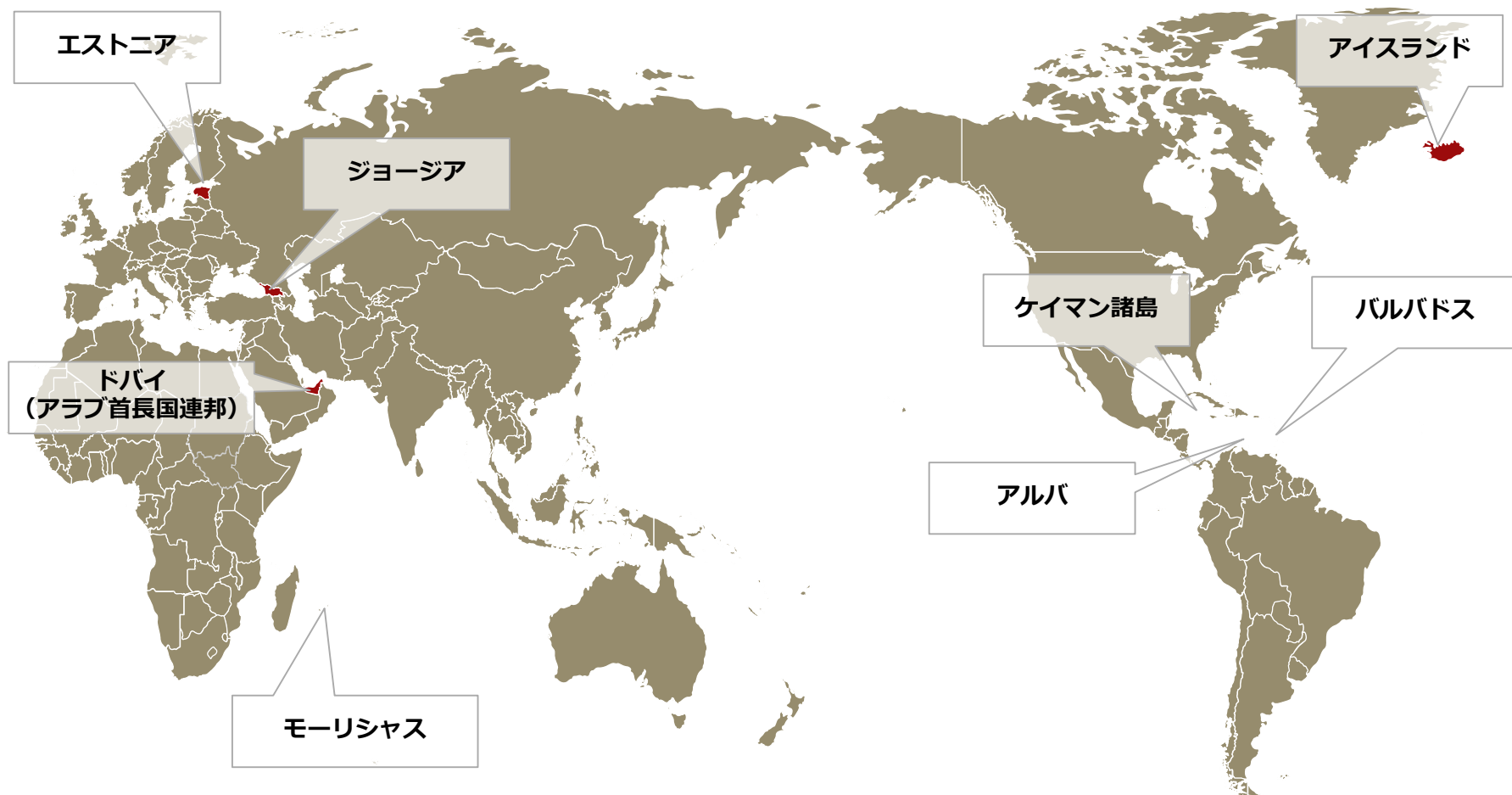
各国（デスティネーション、供給側）の対応

	需要	+	供給
ワーク・フロムホーム	<ul style="list-style-type: none"> コロナ前にはどの程度が在宅ワークであったか？ コロナ後は？ 		<p>N/A</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光関連とはあまり関係ないので対象としない
+			
ワーケーション	<ul style="list-style-type: none"> コロナ前にはどの程度の需要があったか？ 		<ul style="list-style-type: none"> コロナによって、デスティネーション（供給側）はどのような対応をしているか？
+			
プレジャー	<p>N/A</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査がなされていない 		<ul style="list-style-type: none"> どのようなデスティネーションが人気なのか？

デスティネーション

各国のワーケーション（リモートワーク）関連ビザ発行状況

- Withコロナにおける新たな働き方を背景に、様々な国でワーケーション（リモートワーク）関連のビザを発行し、ワーケーション市場の獲得に乗り出している



デスティネーションの対応

カリブ海諸国のワーケーション（リモートワーク）関連ビザ

- アルバやバルバドス、ケイマン諸島は、ビーチリゾートの利点を生かしワーケーション関連ビザを発行。ケイマン諸島では、1,000万円以上の年収を要件としている

		Aruba	Barbados	Cayman Islands
名称		Happy Workation Program	12 month Barbados welcome stamp visa	Global Citizen Concierge
関連サイト		https://www.aruba.com/us/one-happy-workation	https://barbadoswelcomestamp.bb/visas/	https://www.visitcaymanislands.com/en-us/global-citizen-concierge
対象		アルバン島外の企業に勤める アメリカ国民	国外の企業に雇用している 18歳以上の男女	外国にある企業に終身雇用 されていること（自営業も可）
VISA		必要無し	必要	必要
最低月収	個人	N/A	50千USD（年収） （日本円：516万円）	100千USD（年収） （日本円：1,032万円）
	パートナー・子供同伴			150千~180千USD(年収) （日本円：1,548~1,857万円）
申込方法		ウェブサイトでパッケージツアーを購入すれば良い	パスポート用写真、パスポートの生体ページ、子供との関係を示す証明書の提出等	銀行口座、在職証明、パスポート、等の提出
ビザ申請費用	個人	N/A	2千USD（日本円：20.6万円）	1.5千USD （日本円：15.5万円）
	パートナー・子供同伴		3千USD（日本円：30.9万円）	
期間		最低1週間~最大90日間 まで	最大1年間	最大2年間
その他		パッケージ商品には割引が適用 対象となるホテルにはWifi環境完備		

出所：各種ウェブサイトよりトラベルボイス作成

デスティネーションの対応

欧州・その他地域のワーケーション（リモートワーク）関連ビザ

- アイスランドやドバイもワーケーション（リモートワーク）関連ビザを設け、一定程度の収入がありリモートワークのできる層の受け入れを実施している

		Estonia	Iceland	Dubai	Georgia
名称		Digital Nomad Visa	Long-term visa for remote workers	One-year virtual working program	Remotely from Georgia
関連サイト		https://e-resident.gov.ee/nomadvisa/	https://work.iceland.is/working/icelands-remote-work-long-term-visa	https://www.visitdubai.com/en/business-in-dubai/dubai-for-business/work-remotely-from-dubai#thankyou	https://agenda.ge/en/news/2020/2654
対象		国外の企業に属している又は、クライアントの大半が 国外のフリーランサー	シェンゲン協定加盟国の国民で、 国外の企業に雇用 されていること(自営業可)	外国籍の企業に 終身雇用 されていること(自営業も可)	フリーランサー、フルタイム、経営者 で自国に 仕事を持つもの (規定の95か国)
VISA		必要	必要	必要	必要
最低月収	個人	3.5千EUR (日本円：43.8万円)	1,000千クローナ (日本円：80.8万円)	5千USD (日本円：50.2万円)	2千USD (日本円：20.6万円)
	パートナー・子供同伴		1,300千クローナ (日本円：105万円)		
申込方法		ウェブサイトに記載のある書類を持って自国の大使館へ提出	ウェブサイトに記載のある書類等の提出	在職証明書、銀行口座等	ウェブサイトでの申し込み
ビザ申請費用	個人	80~100EUR (日本円：1~1.25万円)	7,800クローナ (日本円：6,300円)	287USD (日本円：3.6万円) (滞在中の医療保険含む)	
	パートナー・子供同伴				
期間		最大1年間	最大180日間	最大1年間	最低180日 (360日まではビザ無での申し込み可)
その他		現在は欧州以外からの入国は原則禁止	滞在期間中の保険加入が必須	滞在中は 所得税が免除	入国から12日間は自主隔離(必要費用は個人負担)

出所：各種ウェブサイトよりトラベルボイス作成

DESTINATIONの対応

ハワイ : Movers and Shakasプログラム

- ハワイではリモートワークが可能かつ有能な有職者を対象に、非営利団体への補助等を通じて地域貢献をすることを目的に、往復航空券の供与や宿泊・コワーキングスペースの割引等を実施している

Movers and Shakasプログラム概要

概要	<ul style="list-style-type: none"> 有能な技能を持つプロをハワイに誘致し、本業でリモートワークをしてもらいつつ、非営利団体への活動等を通して地域貢献をしてもらうプログラム <u>Pledge to Our Keiki</u>と呼ばれるハワイの自然環境保全への宣誓が必須 	
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 理想の応募者は場所を選ばず仕事ができる有職者で、地域への貢献を志している人 現在、選定プロセスを検討中 	
ベネフィットと対価	ベネフィット	<ul style="list-style-type: none"> オアフ島までの無料往復航空券（先着50名） 宿泊、コワーキングスペース、飲食店における割引
	対価	<ul style="list-style-type: none"> 非営利団体への補助を通じた地域貢献活動への貢献やハワイにおける起業活動支援への参加

ベネフィットと対価例

ベネフィット

GETTING REMOTE WORKING BENEFITS

In exchange for their time and efforts, Movers & Shakas benefit from exclusive deals and unique experiences which include but are not limited to:

<h5 style="color: #0070c0; margin: 0;">SPECIAL DEALS FOR FLIGHTS</h5> <p style="font-size: x-small; margin: 0;">Special flight offers for for Movers & Shakas program members to help you get to Hawaii!</p>	<h5 style="color: #0070c0; margin: 0;">FOOD</h5> <p style="font-size: x-small; margin: 0;">M&S have access to exclusive dining experiences at local restaurants.</p>
<h5 style="color: #0070c0; margin: 0;">LODGING & WORKSPACES</h5> <p style="font-size: x-small; margin: 0;">Our generous hotel and lodging partners will offer exclusive discounts to M&S. Participants will also have access to picturesque outdoor workspaces and indoor co-working spaces.</p>	<h5 style="color: #0070c0; margin: 0;">VIP EXPERIENCES</h5> <p style="font-size: x-small; margin: 0;">For down time and weekends, we'll provide exclusive offers to activities from island hopping to surf lessons to boutique shopping.</p>

対価

CAUSE

COMMUNITY GROWTH: NONPROFIT PARTNERS
Chamber of Commerce Hawaii
Girl Scouts of Hawai'i
Hawaii Literacy
KUPU
More to come!
JOB GROWTH: ENTREPRENEURSHIP PARTNERS
Mana Up
Blue Startups
Pacific-Asian Center for Entrepreneurship at UH Mānoa
More to come!

*現在は予定募集数に達したため、募集は停止している

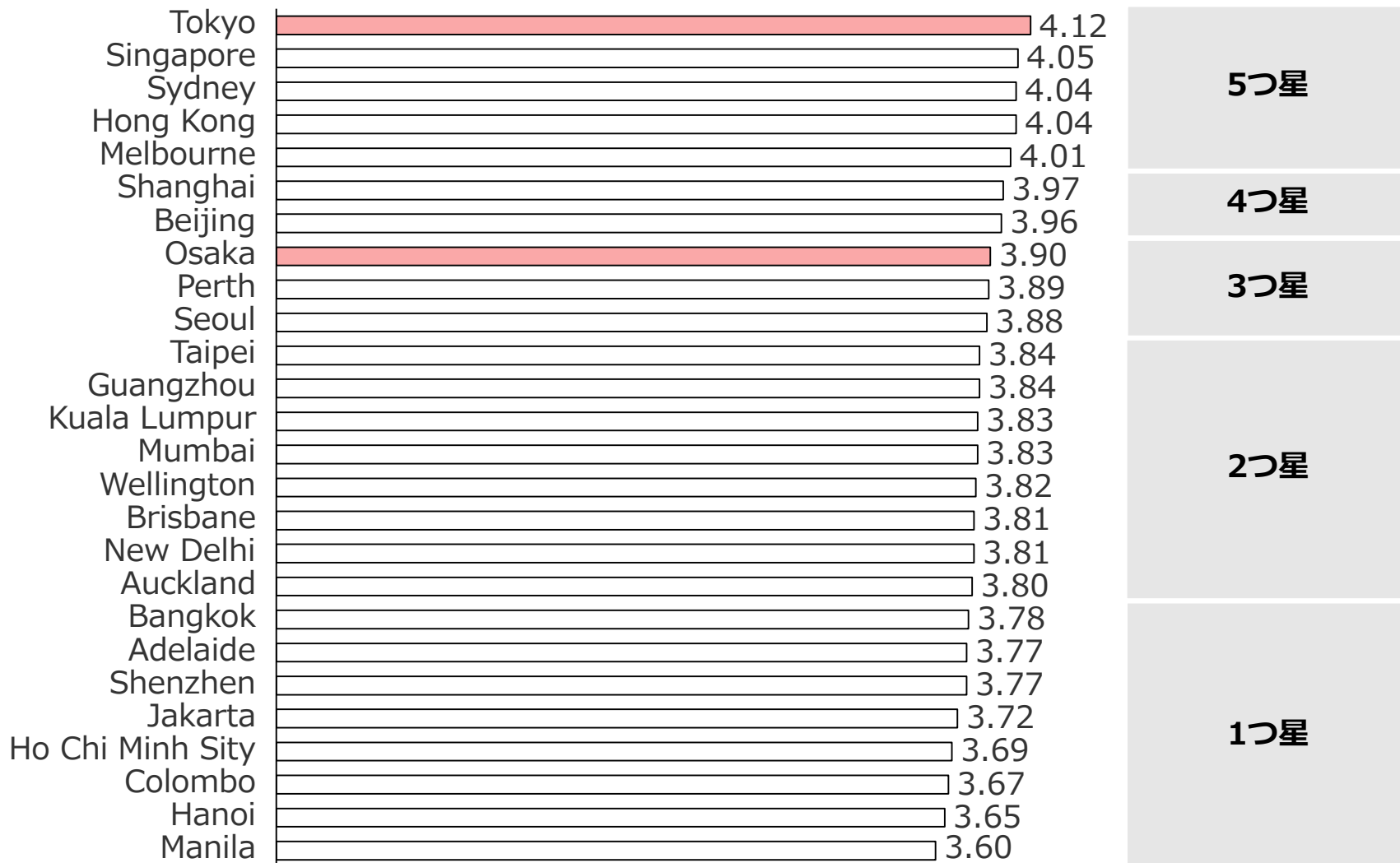
出所 : Movers and Shakasプログラムサイト (<https://www.moversandshakas.org/>) よりトラベルボイス作成

ブレジャーで人気のデスティネーション

	需要	+	供給
ワーク・フロムホーム	<ul style="list-style-type: none"> コロナ前にはどの程度が在宅ワークであったか？ コロナ禍は？ 今後は？ 		<p>N/A</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光関連とはあまり関係ないので対象としない
ワーケーション	<ul style="list-style-type: none"> コロナ前にはどの程度の需要があったか？ 		<ul style="list-style-type: none"> コロナによって、デスティネーション（供給側）はどのような対応をしているか？
ブレジャー	<p>N/A</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな概念であり、調査がなされていないため 		<ul style="list-style-type: none"> どのようなデスティネーションが人気なのか？

ブレジャー・デスティネーションとしての評価 アジアにおける人気ブレジャー・デスティネーション

- アジアの34都市の中で、東京がブレジャーのデスティネーションとしてもっとも高い評価を受けている



世界のビジネスマン1,500人を対象とした調査。ビジネスとレジャーの経験から都市を評価。アジアの34の都市のうちいずれかを少なくとも一回以上、過去3年以内に出張で訪れたことがあること、出張の際にレジャーアクティビティをしたことが条件。出所：The Economist 「the 2019 Bleisure Barometer Asia's best cities for work and recreation」
(<https://fivestarcities.economist.com>) よりトラベルボイス作成

参考URL等

- ワーク・フロムホーム関連
 - The Boston Consulting Group
 - <https://www.bcg.com/publications/2020/remote-work-works-so-where-do-we-go-from-here>
 - Eurostat
 - <https://ec.europa.eu/eurostat>
 - Eurofound 「Covid-19 Living, working and COVID-19」
 - <https://www.eurofound.europa.eu/data/covid-19>
 - PricewaterhouseCoopers US Remote Work Survey
 - <https://www.pwc.com/us/en/library/covid-19/us-remote-work-survey.html>
 - 韓国経済研究院
 - <http://www.keri.org/web/www/home>
 - Dimensional Research (Sponsored by Cisco Webex)
「The Rise of the hybrid workplace-A global survey of Executives, Employee Experience Experts, and Knowledge works」
 - <https://www.cisco.com/c/dam/en/us/products/collateral/collaboration-endpoints/global-workforce-survey.pdf>

- ワークेशन関連
 - Aruba
 - <https://www.aruba.com/us/one-happy-workation>
 - Barbados
 - <https://barbadoswelcomestamp.bb/visas/>
 - Cayman Islands
 - <https://www.visitcaymanislands.com/en-us/global-citizen-concierge>
 - Estonia
 - <https://e-resident.gov.ee/nomadvisa/>
 - Iceland
 - <https://work.iceland.is/working/icelands-remote-work-long-term-visa>
 - Dubai
 - <https://www.visitdubai.com/en/business-in-dubai/dubai-for-business/work-remotely-from-dubai#thankyou>
 - Georgia
 - <https://agenda.ge/en/news/2020/2654>
 - Hawaii
 - <https://www.moversandshakas.org/>
 - <https://www.moversandshakas.org/wp-content/uploads/2020/11/Pono-Pledge.pdf>
- ブレジャー関連
 - The Economist
 - <https://fivestarcities.economist.com/>

●当資料について

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものです。トラベルボイス編集部が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性や確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しては、ご利用者の判断にておこなわれますようお願いいたします。また、本資料に記載された内容は予告なしに変更されることがありますのでご了承ください。

●当資料に掲載されている情報の利用について

当資料に掲載されている内容の2次利用は可能です。ただしその際は、トラベルボイスの引用・転載規定に即して下記3点を順守してください。

- 図表類は加工せずにそのままお使いください。
- 出典を明記してください(例:「トラベルボイスより転載」「トラベルボイス資料より引用」)
- ウェブページに掲載する場合は、当サイトへのリンクまたはURLを記載してください(リンクの場合は、トップページ「www.travelvoice.jp」を指定)

●当資料に関する問い合わせ

トラベルボイス編集部 (contact@travelvoice.jp)

- トラベルボイスは、観光産業に特化したニュースメディア。
- 読者数は月間120万人で、この分野での読者数は最多。
- おもな読者は、観光局、交通機関、旅行会社、宿泊施設、通信会社、IT企業など広範。
- 経営層やマーケティング責任者層に愛読者が多い。
- 日本語版に加え、英語版もあり。



その日のニュースをダイジェスト版にまとめたメールニュース「今日のヘッドライン」は、多くの方からご好評をいただいています。

ぜひサイト訪問して、「メルマガ登録」欄からご登録ください。

www.travelvoice.jp